



Title	Geoscience as "Art": Practice and its perplexities
Author(s)	井出, 和希; 松浦, 季恒
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/101433
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

| 背景

「芸術」作品の制作にあたって科学的な手法をもちいることは、どのような意味を持つのだろうか。演者らはこれまで、ユニット（N/A）として写真やインスタレーションといった作品制作を介して、科学と芸術の関係性、接点、境界（のあるなし、曖昧さ）を探ってきた。

| 制作例

「intervention」(2025)

果実をジェスモナイトで塗装、放置
その後、コンポスト内で約3カ月を経る過程で徐々に周囲が
カビに覆われて変容していく



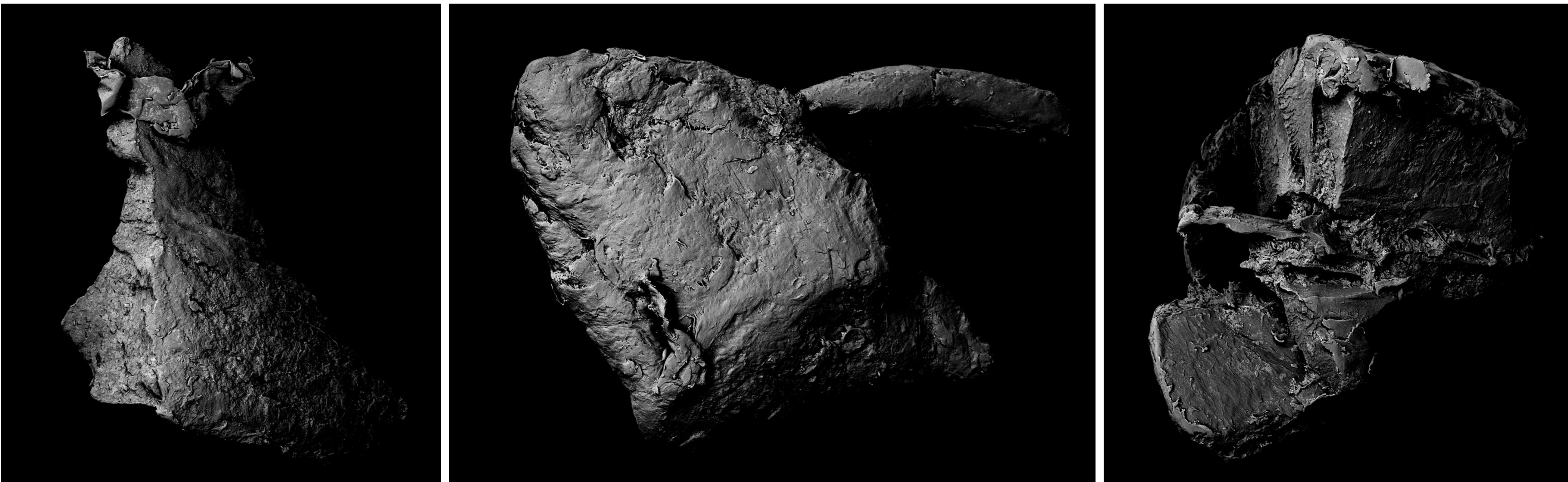
「chromosome, ancient」(2023)

発泡スチロールを強化プラスチック加工の後、ジェスモナイトにて塗装、洗浄周囲には珊瑚を粉碎した砂を敷き詰め、砂紋を描いた



「(An) onymous」(2022-)

砂浜等で採集したマイクロプラスチックを走査電子顕微鏡にて撮影（倍率：50 - 200倍）



| 制作意図 - ものごとの「（無）価値」を問う -

「intervention」(2025)

- 「かたち」を保つことと保てないこと、美しさと醜さ、再現不可能性
- なくなっていく過程をせき止めることで、自然の営みと対峙することを試みる

「chromosome, ancient」(2023)

- 生命をテーマにすることと場所（東京タワー）が規定されていた
- -東京タワー自体を生命に見立てて、染色体（chromosome）を模した立体を制作
- なぜ生命に見立てたかへの想像、「かたち」の不思議

「(An) onymous」(2022-)

- 無価値なものとして数多存在しているマイクロプラスチックの造形に注目し、写真シリーズとして展開することで「価値」のある（かもしれない）ものごとに変えた
+ 数多存在している匿名の存在のそれぞれのかたちを描き出した

| 地球科学との繋がり

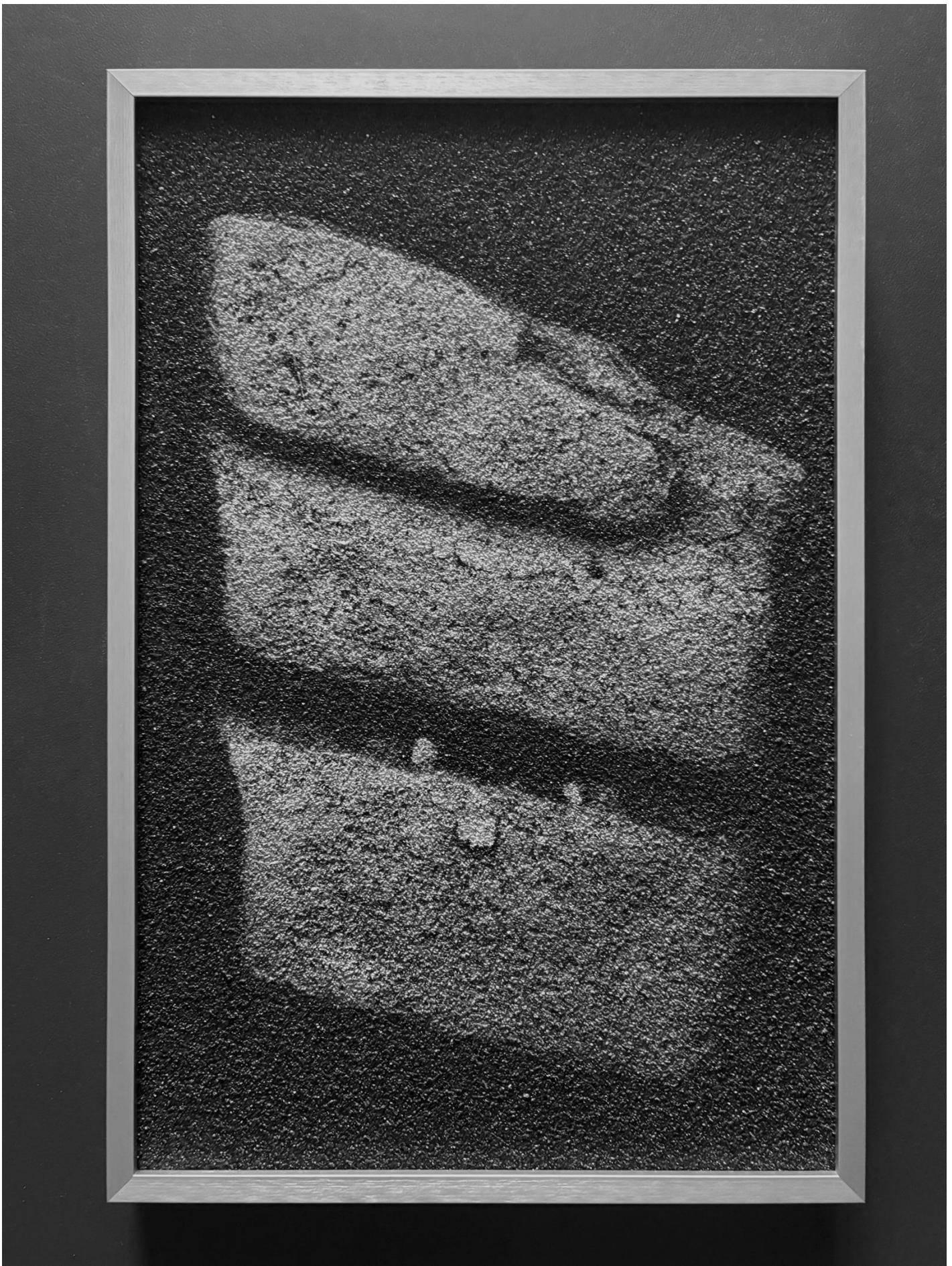
- 私たちが生きる場所としての地球（を改めてみつめてみる）
- 土地の持つ（人為による）歴史（を想像する契機）
- ものごとと自然の関係性、「かたち」や「いのち」を保つことへの問いかけ

| 悩ましさ

- （地球）科学にとっての芸術、（諸）芸術にとっての科学の位置付けは？
- 互いに「何かすごいもの」から一歩踏み込むにはどうしたらよいのだろう？

・・・「相互作用」のあり方とは？気軽に言葉を交わすことができると嬉しいです

□ プロトタイプ（試作）



パネルに砂、UVプリント



サンドペーパー（#60）、UVプリント

テクスチャによる意味の変化・場所性
+
技術上の制約を勘案